

IAATO アザラシ/アシカウォッチングガイドライン1

南極研究科学委員会 (SCAR) 南極野生動物健康ワーキンググループは、2023-2024年と2024-2025年の南半球の夏季期間中、南極および亜南極地域に高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) が持ち込まれる危険性が高くなることを勧告しています。世界的に、このウイルスによる野鳥およびアザラシの大量死が発生しています。野生生物に関わる方々やその近くで働く方々は、HPAIが持ち込まれることを想定し、可能な限り強力な防疫対策を維持する必要があります。何らかの大量死を発見した場合は、適切な手続きに従い、自社ツアーチームを通じてIAATOに報告してください。

IAATOのアザラシ/アシカウォッチングガイドラインは、安全かつ環境に配慮した方法でアザラシ/アシカを鑑賞するためのベストプラクティスを概説するものです。ここに記載されたガイドラインは、IAATOの種ごとの具体的なガイドラインを補足するものであり、その代わりとなるものではありません。

陸上および氷上でのアザラシ/アシカ観察の一般的なルール:

- 陸上、氷上、海上を問わず、船舶、小型ボート²、その他の移動手段は、野生動物を動揺させない方法で使用してください。
 - 上陸地点、生息地、個体に接近する、または離れるときは、ゆっくりと慎重に行ってください。
 - 付近で野生動物を観察している他の人たちと協力してください。
 - 声や音をできるだけ出さないでください。
 - 急な動きをしないでください。
- どのような場合でも、動物と遭遇したときは、動物が動揺している兆候を示していないか監視してください(以下の「アザラシ/アシカの行動パターンを理解して動物の動揺を防ぐ」を参照)。
- 動物との距離にかかわらず、頭をわずかに1回上げる以外の反応を示すような行為を避けてください。動物が複数回にわたって頭を上げる動作をしたら、人間の存在にストレスを感じている可能性があります。そのような場合は、ゆっくりと離れてください。
- 決してアザラシ/アシカを人や小型ボートで囲まないでください。必ず180度以上の逃げ道を与えてください。
- 常に動物に道を譲りましょう。
- 野生動物との交流を促したり、触ったり、触らせたりしないでください。このような行動は、ストレスまたはケガの原因となったり、病気感染のリスクを高めたり、動物からの攻撃的な反応を引き起こしたりする場合があります。
- 衣服、履物、器具については、常に適切な防疫対策の手順に従ってください。
- 野生動物に決して餌を与えないでください。



I IAATOの野生生物ウォッチングおよびその他のガイドラインは、国内政府の法律に取って代わるものではありません。一部の国では、IAATOのものを超える、より厳しいガイドラインや規制が存在し、IAATOのガイドラインよりも優先される場合があります。 そして国の規制に違反すると罰金、懲役刑や極端な場合には、船舶の押収によって罰せられます。

2 本文書では、「小型のボート」をゾディアック型の空気注入ボートとして定義し、複合または半複合のゴムボート、あるいは海岸での見学に使用される同様の上陸用小型船を指します。



アザラシ/アシカの行動パターンを理解して動物の動揺を防ぐ

陸、岩、または氷上に上がったアザラシ/アシカはボートや人の気配に敏感です。音、匂い、視界に入るものに反応します。

アザラシ/アシカが動揺していることを示す行動を把握しておきましょう。以下の行動をはじめとした様々な行動が挙げられます。

- 注意や警戒のレベルが高まり、頭を回したり、首を伸ばしたりする。
- 横たわっている状態から直立の姿勢に変わる。
- 身体を回転させて、脅威を感じている人間、船舶、車両の方へ顔を向ける。
- 個体または群れが、接近する船舶、車両、または人から急いで離れる(急いで水に入るなど)。
- 口を大きく開ける(氷上のヒョウアザラシ、陸上のゾウアザラシなど)、あるいは
- 攻撃的に威嚇する、またはあなたの方へ突進してくる

判断が難しい場合は、慎重に離れてください。

海岸のアザラシ/アシカを見るとき

- 繁殖が最も盛んな期間は、多数のアザラシが強固に縄張りを守っているため、上陸できないことがあります。
 - 小型ボートでのクルージングは、アザラシと訪問者の双方を保護し、思い出に残る野生動物観察を経験できる代替アクティビティです。
 - 特に生息地および繁殖地の近くでは、水中の野生動物に注意 してください。 野生動物が水域に出入りするための場所を塞 がないようにしてください。
 - 速度を落としたり、進路を変えたりして衝突しないようにしてく ださい。
- アザラシを観察するときは、取り囲んだり割り込んだりしないでください。特にハーレムや母親と子供には注意してください。
 - -ハーレムは、一頭のオスによって支配されているメス (母親のメス、そうでないメス) の群れです。
 - 母親が摂食する際、子供たちが放置されることがよくあります。 子供たちは見捨てられたわけではありません。そのままにして、触れないでください。
 - 彼らが見える場所に留まってください。
- 海岸では、アザラシ/アシカと海の間は避け、沖側を歩いてください。
- 一時的に水を離れて横になっているアザラシを見下ろしたり、 視界を遮ったりしないでください。
- ゲストの活動を管理し、出会い頭の遭遇を避けてください。
- 繁殖期の海岸では、訪問者とアザラシが不意に遭遇するリスクを極力抑えるため、他の人とペアになって歩いてください。写真の撮影は交代で行い、一方は常に周囲に目を配ってください。
- 草むらの動物には注意してください。フィールドガイドは杖または杖と同等のものを持ち運ぶことが理想的です。
- 個体、特に離乳期のゾウアザラシのような幼い子供は、海岸に設置した機材(座礁時用緊急設備や携帯用境界標識など)に興味を持つ ことがあります。機材はできる限り離れた場所に置き、アザラシ/アシカが近づいたときには動かせるようにしておいてください。動物 を追い払おうとしたり、触ろうとしたりしないでください。安全を確認したうえで、慎重に機材を移動させてください。









陸上または氷上でアザラシ/アシカを観察する際の推奨接近距離

- **陸上または氷上のアザラシ/アシカとは、少なくとも5m/15フィートの距離をとってください**³。 これは、動物が人間の存在に動揺している 兆候を示していない場合を前提にしています。 許可や認可の内容によっては、より長い距離を求められる場合があることに注意してく ださい。
- 推奨する接近距離を種とライフステージごとに要約したものが表1です。動揺の兆候は常に注意しておく必要があります(上記参照)。 状況はその時々によって異なり、より長い距離を保つ必要がある場合もあります。
- よい写真を撮るために、野生動物または野生植物に干渉する行為を絶対にしないでください。フラッシュ撮影はいかなる状況でも行わないでください。動物との間は、推奨距離を保ってください。
- 近づくために「自撮り棒」などの機器を使用しないでください。

表1-推奨する最小接近距離

種/ライフステージ	最小距離(m/フィート)	注意事項
陸上で闘っているオスのゾウアザ ラシ	25m/75フィート	
陸上のオットセイとアシカ	15m/45フィート	陸上で機敏に動く、緩いまたは滑りやすい地形では人間より速い。接近 しすぎると、突進してくることがある(噛みつく可能性もある)。
陸上・海上・水中のヒョウアザラシ	5~15m/15~45フィート	機敏で好奇心旺盛ウォータークラフトに噛みつくことがある。
幼少期(子供、ゾウアザラシの「離 乳期」を含む)	5m/15フィート	好奇心旺盛、人に近づいてくることがある。 接触を避けること。 5mの距離を保持し、 ゆっくりと注意深く後退する。

3 南極訪問者のための一般的ガイドライン南極条約協議国会議決議4(2021年)、附属書1